

学校だより 第19号



令和2年 1月 8日 津市立榊原小学校

平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果について

昨年の平成31年4月18日（木）に榊原小学校6年生8人を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本年度は、国語、算数、児童質問紙、学校質問紙の調査がありました。昨年度までは国語と算数は、基礎的な知識の定着度を確認するA問題と知識を活用する力を問うB問題に分かれていましたが、今年度はそれらが融合された問題に変更となって実施されました。中学校（3年生の調査）では、初めて英語の調査も実施されました。

この結果を分析し、すでに授業改善等につなげています。保護者のみなさまには、お子様の得意なことを認めながら、今後の学習や生活の励みとなるような声かけをお願いします。6年生の児童には、すでに個人票が返却されています。返却時には、個人票の見方を担任から説明し、得意なこと・不得意なことを確認しました。遅くなりましたが、以下に、本年度の榊原小学校の結果と分析内容をお知らせします。



【平均正答率】

	国 語	算 数
榊原小学校	全国より下回る	全国より下回る
三重県	64	67
全国	63.8	66.6
津市	64.0	66.6

【中央値】 平均正答率は、データ数が30以上の時に効果的な分析ができるのに対して、榊原小学校のような少人数の小規模校では、「中央値」という値を使う方が適しているの
で、その方法でも分析しています。

	国 語	算 数
榊原小学校	10.0	9.0
三重県	9.0	9.0
全国	10.0	9.0
津市	10.0	10.0

現在5年生の児童（9人）については、来年度（新6年生）の全国学力・学習状況調査が、**令和2年4月16日（木）**に行われます。国語、算数、児童質問紙の調査です。

また、今月**1月22日（水）**には、**第2回みえスタディ・チェック（国語と算数）**が現在の5年生の児童を対象に行われます。

以下の比較対象は、すべて全国との比較です。

（国語について）

領域では「言語文化」にはあまり差がないが、「話す・聞く、書く、読む」（特に**書く**と**読む**）のポイントが下回っている。観点別では「関心」が大きく上回っている。問題形式では、選択式・単答式ともに下回っているが、記述式では上回っている。

日頃の学習が「楽しく、意欲的」に活動できているので、まだまだ伸び代はある。「書くこと」「読むこと」において、もっと力をつける必要がある。読書をもっと推奨していきたい。「根拠や理由を挙げてまとめたり発表したりする」「理由や例えを入れて、相手に分かりやすく、自分の思いや考えが伝えられる」ことを意識させながら授業に取り組んでいる。本校はどの学年においても「書くこと」が課題として挙げられているので、発達段階に応じた指導と学力の定着をはかっていく。

（算数について）

領域では、すべてで下回っており、「量と測定」が最も低い。観点別では、「数学的な考え方」が最も低い。「技能」「知識理解」はやや上回る結果である。形式別では、選択式はよくできていたが、単答式・記述式は下回っている。

計算についてはケアレスミスが多い。基礎的な要素が強いので、日頃から継続して計算練習をさせたり、問題を解かせたりすることで鍛えている。「単位量あたり」「面積」等の領域の復習が必要である。国語と同じく、「書くこと」がネックになっているので、授業では、根拠を求めながら考える習慣づけと、それを順序よく説明するという練習をさせている。理由や根拠を知識から導き出せる力を、低学年の段階から身につけさせていきたい。

【児童質問紙からみられる生活・学習状況と今後の取り組みについて】

（本校の強み）

「朝食を毎日食べていますか」と「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問には全員(100%)が「食べている・いけないことだと思う」との回答をしている。また、「昼休みや放課後に、本を読んだり学校図書室に行く」「読書が好きである」「地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」割合は、全国の結果に比べて、榊原小は20ポイント以上高い結果が出ている。学習に関しては、「算数や国語の勉強が好き」「算数や国語の授業の内容はよく分かる」という割合も10ポイント以上高くなっている。

（本校の弱み）

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う」割合は全国に比べて低い結果が出ている。学習に関しては、「授業でもっとICTなどのICTを活用したいと思う」「算数の授業で、問題を解くとき、もっと簡単に解く方法はないかを考えたり、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」割合は低い。昨年度低かった「ノートの取り方」については、今年度は、授業改善や特に算数のノートで、途中の過程などの解き方がよくわかるようなノートの書き方を指導していった成果で、全国の結果よりも高くなっている。

今後は、さらにどの教科においても、「自分の考えをまとめる」「わかりやすく伝えたり話したりする」活動を各学年の発達段階に応じて意識的に取り入れていく。日頃から学習していることを、日常生活の中で生かしていく場面や働きかけをさせていく。基礎基本の力をつけていくには、**低学年から取り組みが必要**であり、ベースとなる学習規律の徹底と学習に対する意識づけもしていく。そして特に『家庭学習』について重要であると考えているので、子どもたちが主体的に家庭学習に取り組めるように、各家庭でもご協力をお願いしたいと思います。